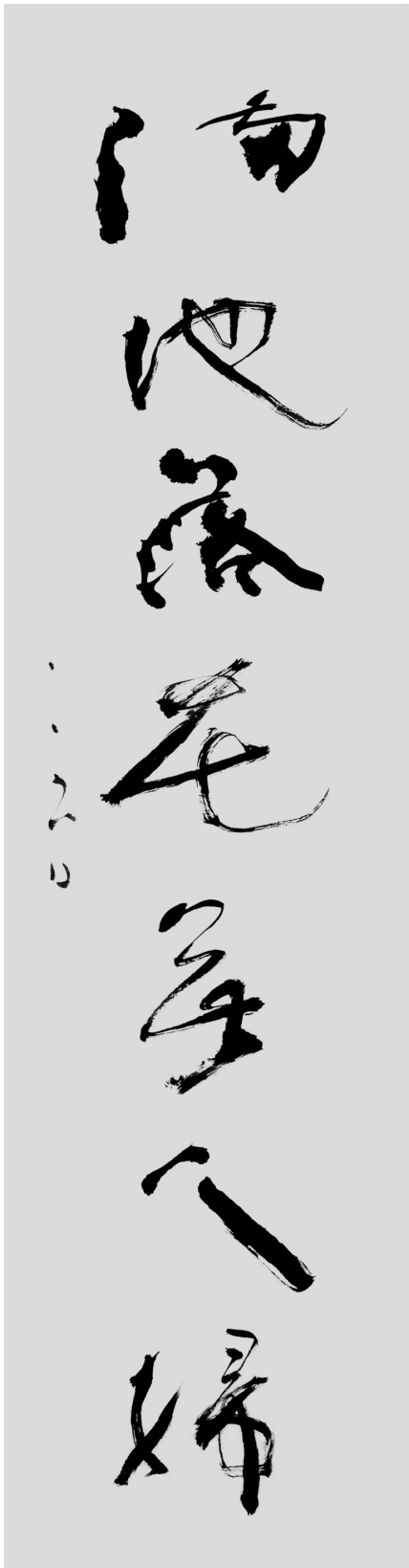


条幅部自由参考

2月25日正午必着

明石春浦先生書



満地落花無人掃（蘇軾）
まんちのらくかひのほらうなし
 春は將に老いんとしている。

明石幸子書



静雨簷滴二元無レ雨、
しずかにえんてきをきくにもとあめなく
 倒挂氷牙未レ怕晴
さかしたひょうがかりまだせいをおそれず

（楊萬里）

しみじみと軒のしたたりを聞くのに、それは雨だれでなく、つららがさがっているのだった。つららは水滴を落すが、一向晴天を恐れぬように堅い。

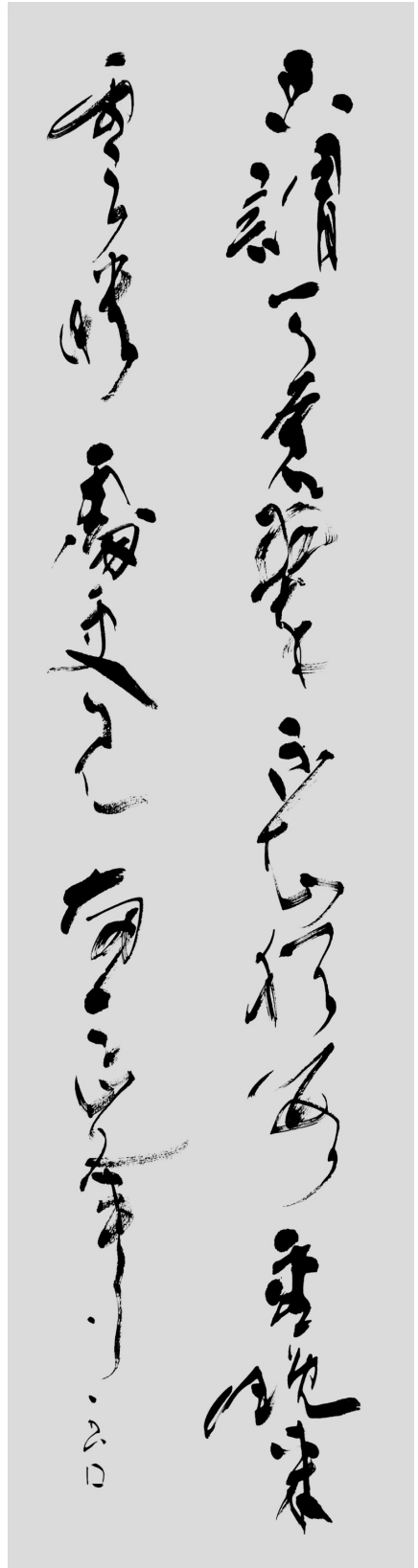
条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

只謂一蒼翠。不知猶數重。
晚來雲映處。更見兩三峯。

(斐夷直)

前にはただ一面の山のみであるが、尚つぎつぎに山は重なりあっているらしく、更に兩三峯が雲の間から見られる。



菅井松雲先生書

萬里寒光 (祖詠)

萬里の寒光

冬の形容。みわたす限りの寒光。

大雪滿天地。胡為仗劍遊。
欲談心裏事。同上酒家樓。

(鄭燮)

大雪天地に満つ。胡為ぞ劍に仗つて遊ぶ。
心裏の事を談ぜんと欲し、同上に上る酒家の樓。

この大雪が天地に満つる時、何のために劍を
たばさんで行くのであろう。

晚至華陰 (皇甫曾)

晚に華陰に至る 皇甫曾

臘盡促歸心。行人及華陰。

臘尽きて歸心を促す 行人 華陰に及ぶ

雲霞仙掌出。松柏古祠深。

雲霞 仙掌出で 松柏 古祠深し

野渡冰生岸。寒川燒隔林。

野渡 氷は岸に生じ 寒川 燒は林を隔つ

溫泉看漸近。宮樹晚沉沉。

溫泉 看、漸く近く 宮樹 晩に沈沈たり

遠山の峰なる雪に 天雲の影落つる見え 寒けかりけり

(若山 牧水)

半紙部規定課題A

2月25日正午必着

適 游
越 吳
還

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(四体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。

半紙部規定課題B

2月25日正午必着

行書

游吳還
適越

隸書

游吳還
適越

明石春浦先生書

草書

游吳還
適越

行草書

游吳還
適越

呉の地を遊歴し 更に越の地方に行き ただ風まかせ 波まかせに往来する
 またも貴方をお送りするのだが 春の草の茂るのをどうすればよいのでしょうか
 山の頂は明るく まだ雪が残り 潮は満ちて いっぱいに夕陽の日ざし
 いまものこる季子の祠廟 舟をとめて ちょっと立ち寄られるよう

送「韓司直」 皇甫冉

游吳還適越

來往任風波

復送王孫去

其如芳草何

山明殘雪在

潮滿夕陽多

季子留遺廟

停舟試一過

韓司直を送る 皇甫冉

呉に遊び 還た越に適き

來往 風波に任す

復た王孫を送り去る

其れ芳草を如何せん

山明らかにして 残雪在り

潮満ちて 夕陽多し

季子 遺廟を留む

舟を停めて 試みに一たび過らんことを

(出典)
朝日新聞社刊
「三体詩」下より

2月25日正午必着



横渠張先生

西 墨濤先生臨書



横渠張先生東銘篇曰。戲言出於思也。戲動作於謀也。發乎聲。見乎四肢。謂非己心。過言非心也。過動非誠也。失於聲。謬迷其四體。謂己當



清 鄧石如・張子東銘

鄧石如（一七四三～一八〇五）名は琰、字は石如。後に石如を名とし、字を頑伯と改めた。皖公山の麓に居をかまえていたことから、完白山人とも号した。官途には就かず、名家を訪ね、各地を放浪しながら書を学び、書や印を売って生計を立てた。篆刻の技に秀でたものがあつたが、篆書や篆刻は父親の木斎から教えられたもので、特に師匠についているわけではない。篆隸楷行草の各体及び、特に師匠についているわけではない。ゆる漢碑を蘇らせ、その結構は嚴整にして変化きわまりなく、むしろ雄偉な風格を形成した。包世臣の『芸舟双楫』では清朝第一の大家として賞揚しており、正に碑学派の棟梁としてふさわしい存在である。

書道のことを中国では書法という。中国人には自己の書法の確立という意識が強いのもかもしれない。ところが鄧石如の隸書においては一作ごとに異なった意趣があり、年代の進行に伴ってその心境が変化して固定することがない。自己の書法の完成といった卑俗な意識が無かつたのであろう。古典を真つ向から捉え、さらに真つ向から新たな創造に結実させた墨跡は貴重なものとなる。

この張子東銘は、宋の代表的な哲学者張載の「東銘」を書いたもので、言動の戒め慎しむべきを述べている。全八幅一冊二行、行八字で、完白の最晩年、しかも死の四ヶ月前の作である。（春龍）

2月25日正午必着

△做書参考▽

※この釈文での臨書部門の出品は出来ません。

不	也	戲
明	發	言
也	乎	出
欲	聲	於
人	見	思
無	乎	也
鄧 完 子 張 子 東 疏 。 鄧 臨 □		
四	肢	戲
謂	非	動
已	非	於
		謀

戲言出於思也。戲動作於謀也。發乎聲。見乎四肢。謂非已(心)不明也。欲人無

※(心) 欠字

玉	遠	五
樓	故	樓
傾	宮	傾
側	宮	側
粉	武	粉
牆	帝	牆
空	去	空
重	來	重
疊	紅	疊
青	袖	青
山	盡	山
	畫	
	春	
	風	
徹 頑 白 筆 一 意 書 叶 。 □ □		

玉樓傾側粉牆空 重疊青山遠故宮 武帝去來紅袖盡 野花黃蝶領春風 (王建)



ちょう
彫

こく
刻

中学一年

雨宮春聲先生書



りょう
良

かん
寛

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



がっ しょう
合 唱

小学五年

榎戸春龍先生書



そう だん
相 談

小学六年

藤井良泰先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

2月25日正午必着



藤田幸春先生書

しょう じょ
少 女

小学三年



細谷春誠先生書

つ ら ら
氷 柱

小学四年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

ま め 小学一年・幼年



森戸春濤書

白 い 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

川の向こう岸までの	きよりを目測する
-----------	----------

小学五年

この店は品物が多い	ことで定評がある
-----------	----------

小学六年

狂言は貴重な文化財と	して受けつがれている
------------	------------

中学

冬の北海道で見事な	流氷を見て来ました
-----------	-----------

一般(級位)

空澄みて寒きひと日やみづうみの氷の裂くる音ひびくなり(島木赤彦)	みゆみの裂くる音ひびくなり
----------------------------------	---------------

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

き	う
れ	め
い	の
に	は
さ	な
い	が
た	

幼年

ま	年
め	の
を	か
た	ず
べ	だ
ま	け
す	

小学一年

か	戸
ら	じ
出	ま
か	り
け	を
ま	し
す	て

小学二年

こ	雪
ま	と
れ	こ
た	お
世	り
界	に
	か

小学三年

い	つ
写	く
真	え
が	の
で	中
て	か
き	ら
た	古

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

おぼくはなみえよ
 寸ねまほるも

ふんよひる
 寸ね



岩本景楓先生書

おぼつかな みやこにすまぬ みやこどり ことふ人にかごたへし
可 尔 万 美 耶 利 登 尔 可 許 多 遍
 (宜秋門院丹後)